

2023 年度の省エネルギー対策の総括

義塾において消費したエネルギー全体の使用量と目標設定における対象年度の使用量とをエネルギー消費原単位（※1）の数値で比較して評価を行った。カーボンニュートラル化の推進とエネルギー（電気・ガス）コストの高騰に対応するため、省エネ法で定められた目標値（エネルギー消費原単位を年平均で 1%以上低減）より高い省エネルギー目標「各キャンパス単位でエネルギー消費原単位を 2022 年度比で 2%以上低減する」と設定し省エネルギー対策を実施した。

※1 エネルギー消費原単位
異なる単位を用いるエネルギー（電気・ガス）の使用量を合計するために、各エネルギーを熱量換算し、その合計値を各キャンパスの延べ床面積で除して「エネルギー消費原単位」を算出する。

■年間エネルギー消費原単位比較

2023 年度は 2022 年度と比較して 1 年間を通じて気温が高く、平均気温が約 1.4℃高かった冷房期間（6～9 月）は冷房需要増によりエネルギー使用量（主に電気使用量）が増加したが、平均気温が約 0.2℃高かった暖房期間（12～3 月）は暖房および給湯需要減によりエネルギー使用量（主にガス使用量）が低く抑えられた。またこれに加えて各キャンパスにおいて空調や換気設備の効率的な稼働が定着してきたことと、照明器具 LED 化の積極的な推進など省エネルギー対策が進んだことから、全キャンパス合計のエネルギー消費原単位は 2022 年度比 93%となった。エネルギー消費原単位の大幅な減少には、改正省エネ法において 2023 年度から電気に関する熱量換算係数が改められたことも大きく影響しているが、熱量換算係数の変更を加味しないエネルギー消費原単位での比較でも全キャンパス合計のエネルギー消費原単位は 2022 年度比で 99%となり、全塾のエネルギー使用効率が向上していると考ええる。

年間エネルギー消費原単位比較（単位：MJ/m²・年）

	2022 年度 エネルギー 消費原単位	2023 年度 エネルギー 消費原単位	2022 年度との比較	
			差異	差異 比率
三田キャンパス	798	729	-69	91%
日吉キャンパス	955	800	-155	84%
矢上キャンパス	2,380	2,094	-286	88%
湘南藤沢キャンパス	844	771	-73	91%
芝共立キャンパス	1,959	1,797	-162	92%
信濃町キャンパス	2,831	2,801	-30	99%
主要6キャンパス	1,644	1,531	-171	93%

以 上